

# 優秀賞

## 摂津市教育委員会

活動の内容 (概要)	摂津市教育委員会が事務局となり、商工会と連携してキャリア教育の登録制度を設けている。中学校の職場体験では、登録団体や個人の協力を得て、企業が有する課題に関する探究活動を実施。小学校では、社会人との交流を希望する学年と企業・個人をつなぎ、「社会人トーク」で地域の方へインタビューを行った。また、プロのダンサーによる運動会ダンス指導や、納豆作りなどの出前授業を開催した。加えて、PTA祭りへのブース出展などを通じ、学校・地域・企業の大人たちが一体となり、共に価値を創造する場を広げている。
審査委員コメント	<ul style="list-style-type: none"><li>・連携・協働団体の数が多いこと、教育委員会が主体者となり市内全体のキャリア教育の底上げに取り組んでいること、3年目に入り継続性にも目途が立ったことなど、優れた取組であると言える。</li><li>・摂津市教育委員会が事務局を担い、市内の小中学生を対象にキャリア教育の充実を図る取組が進められている。教育委員会によるトップダウン型ではなく、現場の教員の声を丁寧に聞き取り、互いの理念を共有したうえで実施されているため、着実に成果が上がっていると感じられる。取組を広く周知するために校区ごとの伝達講習会を導入することは非常に効果的である。今後は、福祉や医療分野の関係者とも連携し、仕事のやりがいやそれに携わる大人の生き方に触れる機会を提供することで、子どもが自らの将来像を描けるよう支援を続けていく方向性は、まさに時代のニーズに即したものである。</li><li>・摂津市の取組からは、教育を地域全体で支えようとする行政の真摯な姿勢が感じられる。「キャリア教育応援企業制度」によって学校と企業がつながりやすい仕組みが作られており、先生や子どもが地域の大人と出会う機会が増えている。行政が調整役として関わることで学校現場の負担を減らしながら学びの幅を広げている点が印象的である。取組が仕組みとして継続していることも素晴らしく、長期的な視点で地域と教育が協働している様子に共感する。市内の多様な企業が教育活動に参加する姿勢にも温かさが感じられる。今後は、現場の先生と企業との協働がさらに深まり、地域全体で子どもの成長を支える文化として根づいていくことを期待する。</li></ul>
連携・協働している 機関や団体、組織	<p>教育関係者(学校、教育委員会等)</p> <p>摂津市内すべての市立小中学校、摂津市教育委員会事務局学校教育課</p> <p>行政(首長部局等)や地域・社会(NPO法人やPTA団体等)、産業界(経済団体や企業等)</p> <p>摂津市教育委員会事務局こども政策課 摂津市商工会 摂津ビジネスサポートセンター TKエンジニアリング株式会社 上野鉄工株式会社 株式会社Skip Job 株式会社MVC WORKS NPO法人ZERO RED-B ホクト工業 Lilyleather Design M-HOME 株式会社インディゴ 有限会社ワコーメタル ゆびまるこドッグサロンDiL(ディール) mona dance academy 株式会社アサヒ工作所 茨木・摂津障害者就業・生活支援センター阪和建機株式会社 福の鳥フーズ café sheep NPO法人摂津市人材サポートビューロー Keikoピアノ教室 株式会社たまゆら 木下らんま店 マナビバ UIビジネスサポート 株式会社メイクワン 株式会社花岡工務店 山形開発工業株式会社 Goose bumpS 株式会社KKI 株式会社東洋工作所 株式会社山崎研磨工業所 E&amp;Cサポート株式会社(有)大日本スプリング製作所 ことばとデザイン(株)カネタ 中島会計事務所 北摂HR相談所 株式会社ハッピーエデュケーション 日本生命保険相互会社 鍼灸サロン いぶきケアルーム セイハネットワーク株式会社 プリマール株式会社 フラワーエレガンス 株式会社ケンオン 社会福祉法人桃林会遊育園こどもクリニック 一般社団法人笑ってMe YICTフォレスト合同会社 株式会社Rewarding ニプロ株式会社</p>
活動開始の経緯	摂津市では、これまでも多くの企業の協力により、中学校でのキャリア教育プログラムを充実させてきた。しかし、小学校段階から子どもが将来を見据え、自らの力で生き方を選択できるよう支援することの重要性を認識し、単なる支援のお願いに留まらず、協力企業にとっても事業所のイメージアップや広報活動につながるなど、双方にメリットがある持続可能な連携の形を築くことを目指している。

<p>活動の内容</p>	<p>協力性についての具体的な取組、工夫している点など</p> <p>教育関係者と地域・企業が互いの理念を共有し、協働するために、以下の取組を通じてその実現を図っている。</p> <p>まず、学校教育活動の主体である教職員との丁寧な打ち合わせを、市教育委員会事務局が中心となって実施している。これは、学校現場のニーズや教育目標を深く理解するための基盤となる。同時に、企業や協力団体については、市商工会事務局が連携の中核を担い、企業の教育への思いや提供できる資源を把握している。</p> <p>この連携において特に工夫している点は、教職員の「やらされ感」をなくし、主体的な参画を促すことである。外部連携は時に教職員の負担となり、取組が「他人事」になる恐れがあるため、真の協働には教職員の主体的な思いが不可欠である。</p> <p>だからこそ、市教育委員会事務局は教職員の思いをしっかりと聞き取り、彼らが「やりたい」と感じることを中心に据えて取組をスタートさせることを最も重要視している。例えば、学校現場からは「子どもが大人と出会うことで、夢だけでなく具体的ななりたい大人像を見つけるきっかけにしたい」というニーズがあった。これに対し、企業側からは「子どもからの感想がほしい」という声があり、商工会を通じてこれらのニーズを市教育委員会に伝達し、丁寧にすり合わせを行っている。</p> <p>このように、教育現場と市教育委員会、企業等と商工会、そして商工会と市教育委員会という多角的な連携体制を構築し、各主体からのニーズを積極的に吸い上げ、特に教職員の主体的な思いを尊重することで、それぞれの立場を持つ理念を深く共有し、真の協働を実現している。これにより、単なる協力関係に留まらず、子どもの学びを豊かにするパートナーシップを築いている。</p>
<p>活動の内容</p>	<p>継続性についての具体的な取組、工夫している点など</p> <p>本取組は、キャリア教育を長期にわたり持続的に運営していくため、以下の具体的な工夫を行っている。</p> <p>まず、教職員向けのキャリア教育担当者会を年間3回設定し、継続的な情報共有と改善サイクルを確立している。</p> <p>第1回目では、キャリア教育への認識を深め、各学校の取組や課題を共有することで現状把握と共通理解を促進する。</p> <p>第2回目では、キャリア・パスポートの取組を共有し、実践の質向上と横展開を図る。</p> <p>第3回目は、今年度の取組の振り返りと次年度の検討を目的としており、これはまさにPDCAサイクルの「Check(評価・分析)」と「Act(改善)」に直結する重要な機会である。</p> <p>市教育委員会が伝達講習を行い、校区ごとに取組を共有する場を設けることで、担当者が孤立せず、互いに学び合いながら制度の定着と活用を促している。学校現場での実践が徐々に増えていることから、今後は学校からのニーズを基に取組のさらなる拡大を推進していく。</p> <p>この登録制度をより持続可能なものにするため、2025年5月12日には「キャリア教育支援ネットワーク共創に係る連携協力に関する協定」を締結した。これは、教育現場と社会をつなぎ、子どもの社会適応能力(非認知能力)を育むことを目的としたマッチングプラットフォームの導入を可能にするものである。このプラットフォームは、多くの自治体の教育関係者と各地域のサポーター(協力事業者)が利用できる状況で作成されており、広域での活用を見据えている。</p> <p>教育現場とサポーター(企業・個人)の共創により、「社会人トーク」や「特別授業」などをリアルまたはオンラインで実施できるよう動き出している。これらの取組は単発で終わることなく、組織的かつ継続的にキャリア教育を推進していくための重要な基盤となっている。</p> <p>実践性についての具体的な取組、工夫している点など</p> <p>本市はキャリア教育を市の大きな柱と位置づけ、実践的な取組を進めている。昨年度までNPO法人と連携してキャリア教育推進委員会を立ち上げ、「研修の充実」「外部との連携支援」「日常のキャリア教育」を3つの柱としてきた。</p> <p>研修では、文部科学省の調査官など中核講師を招き、教職員の指導力向上を図っている。外部連携支援においては、市内に中小企業が多く、次世代の働き手確保が課題であるという地域ニーズを捉え、学校への協力が企業のイメージアップや広報活動に繋がるという双方のニーズに応える形で、コロナ禍においても企業から探究課題を募り、職場体験型の職種体験を実現した。この取組は高く評価され、令和4年度には文部科学大臣表彰を受賞している。</p> <p>また、日常のキャリア教育の充実のため、教職員と有識者の議論を経て市独自の「キャリア・パスポート活用手引き」を作成・改訂し、各校へ配布した。これにより、各学校が基礎的・汎用的な能力を意識した年間を通じたキャリア教育を計画的に進めるようになり、実践校が増加している。これらの実践は、子どもが多様な大人との出会いや探究活動を通じ、「なりたい大人像」を見つける機会を効果的に創出している。</p>

	<p>発展性についての具体的な取組、工夫している点など</p> <p>本取組は、地域・社会全体へ波及し、より多くの協力を得られるよう、以下の具体的な工夫を行っている。</p> <p>現在、商工会との連携を基盤に始まったキャリア教育応援企業等登録制度は、単なる教育支援に留まらず、地域コミュニティの多様な側面へと発展している。例えば、これまで各家庭が担ってきた「子ども100番（緊急時の子どもの一時保護や安全確保）」のような地域全体での見守り活動を登録企業へ広げられないかという議論が始まっている。また、同様に地域内の「見守りパトロール」への発展も検討されており、企業の社会貢献活動の新たな形として期待されている。</p> <p>こうした地域企業との多角的な連携は、学校を核とした地域コミュニティの形成を促進し、コミュニティ・スクールへの発展にも繋がっている。企業が単に教育プログラムを提供するだけでなく、地域の子どもの安全や健全な成長を社会全体で支える一員となることで、学校と地域が一体となった教育環境が実現されつつある。</p> <p>さらに、より多くの地域の大人と子どもが対話する機会として、「トークフォークダンス」のようなユニークな交流プログラムにも発展している。これは、登録制度を通じて得られた多様な業種や経験を持つ地域の大人が子どもと直接対話し、多様な価値観や生き方に触れる貴重な場を提供する。このような活動は、学校内のキャリア教育に留まらず、地域全体で子どもの社会性を育む「生きた学び」へと昇華している。</p> <p>これらの取組は、キャリア教育の枠を超え、企業の持つ資源を地域課題の解決に結びつけ、地域全体で子どもを育むという共通の目標に向かって、より多くの住民や団体を巻き込む波及効果を生み出している。これにより、地域の絆を深め、持続可能な地域社会の実現にも貢献している。</p> <p>その他</p> <p>私たちは、単に学校教育の枠に留まらず、地域全体を「学びのフィールド」と捉えている。特に、地元企業の皆様との連携は単なる職場体験の提供に止まらない。子どもが地域の大人と直接対話する機会を創出することで、地域への愛着や誇りを育むことを重視している。地域の産業や文化、そしてそこで働く人々の息遣いを肌で感じることで、子どもは将来、この地域で活躍する自分を具体的に想像できるようになる。これは、地域社会の持続的な発展に貢献する、まさしく未来を見据えた人材育成である。</p> <p>また、本活動は子どもの基礎的・汎用的能力の育成にも大きく貢献している。探究活動における課題解決への挑戦、社会人との対話を通じたコミュニケーション能力の向上、「社会人トーク」での傾聴力や質問力の育成など、従来の学力評価では測りにくい、生きていく上で本当に必要な力を育む機会を豊富に提供している。これらの経験は、子どもが予測困難な現代社会をたくましく生き抜くための土台となる。</p> <p>さらに、キャリア教育を推進する中で、教育現場と地域社会の間に新たな信頼関係を築けていることも大きな成果である。以前は接点の少なかった学校と企業、地域住民が、子どもの成長という共通の目標に向かって協力し合うことで、それぞれの立場を理解し、より強固なパートナーシップが生まれている。この関係性は、キャリア教育だけでなく、災害時の協力体制や地域の活性化など、多岐にわたる分野での連携へと発展する可能性を秘めている。</p> <p>本市は、このような地域と一体となったキャリア教育を通じて、子ども一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、地域社会の明るい未来を創造し続けていく。</p>
<p>学校現場の評価・感想・コメントなど</p>	<p>本校での納豆づくり体験や社会人トークなどの取組は、子どもが地域の仕事や大人の生き方に触れる貴重な機会となり、「働くことの意味」や「自分の将来像」への具体的な意識変化を生み出している。学びが社会と結びつくことで主体性が高まり、キャリア形成の基盤となっている。教職員にとっても外部資源を活用することで教育課程の充実や負担軽減につながった。今後は、事業所の多い地域の特性を生かし、さらに多様な業種とつながることで、子どもが将来を自分らしく描き、持続的に学び続ける力を育む環境を充実させたいと考えている。（摂津市内学校長）</p> <p>子どもが感性を揺さぶられ、自らの憧れや夢を抱きかけとして、また「社会に開かれた学校づくり」を実現するためにも、子どもが学校枠を超えた社会とつながり、様々な人と出会うことは必要不可欠であると考え。しかしながら、学校・教職員がゼロから外部とつながりを作ることは非常に労力と困難さを抱え、企業や外部団体が学校に入ることも高いハードルがあることから、キャリア教育応援企業等登録制度は、その双方のジレンマを解決する一つの手段となり得ると考える。（摂津市内学校長）</p> <p>社会人トークを通し、子どもは「働く喜び」や「誰かの役に立つ意識」を学び、将来を主体的に考える姿勢へと変容した。真剣に質問やメモを取る中で、表現力や傾聴力も育まれている。また、キャリア教育応援企業等登録制度による調整時間の大幅な縮小は教職員の業務負担を軽減した。外部連携によって授業が深化した結果、総合的な学習の時間でキャリア教育を体系的に位置づけることができた。（摂津市内学校長）</p> <p>納豆づくりでは、戻す前的大豆から湯がいた後の大豆の大きさの違いに驚いたり、苦労しながらも楽しそうに作業する児童の姿が見られた。実際に「見て、触って、においをかいで、最後は食べる」という経験は「食育」としてやりたいこと、そのものであった。（市内栄養教諭）</p> <p>先生の好きなことで頑張る姿から“夢”をもらった子どもは、自分も将来、同じように誰かに“夢”を与えられる人になりたいと思えるような貴重な経験になったと考える。（市内教諭）</p>

<p>関係諸機関からの評価・感想・コメントなど</p>	<p>摂津市のキャリア教育応援企業等登録制度は、学校と事業所の連携を過大な負担なく促進している。本制度では5つのアクションプランを提示し、これを基に双方がニーズや目標を共有しやすくしている。これにより、活動内容だけでなく、育てたい子ども像といった目的まで地域全体で考えることが可能となっている。また、プランに地域貢献の取組を含むことで、連携効果を地域へ波及させる工夫もされている点は特筆すべきである。(常磐大学 助教 声沢柚香)</p> <p>「教育現場と地元企業をつなぎたい」という想いを形にしたキャリア教育応援企業等登録制度。地元のダンサーや製造業、飲食店など40社以上の登録があり、小・中学校で「社会人トーク」や「特別授業」を実施できたことは、本当の産官学連携が実現した証である。キャリア教育に関わることは、子どもの非認知能力向上だけでなく、大人が「自分の働き方、生き方を振り返る」貴重な機会であることも明らかになった。(摂津ビジネスサポートセンター)</p> <p>交流を通じて、子どもの柔軟な発想や興味ある分野への関心の高さに気づかされる。地域への還元としては、地元企業の魅力発信や経営者自身の成長、人生観の深化(自己実現)、従業員の人材育成につながっている。産官学連携は、学校だけでは得られない「実社会の知識や経験」(実践的な学び)によって、子どものキャリア観の形成や課題解決力の育成につながり、その結果地域への関心が深まり、将来地元への社会貢献意識が育まれるように思われる。地域活性化を促進する重要な要素である。(摂津市商工会)</p> <p>普段の業務において、自らの仕事について子どもに説明する機会はほとんどない。しかし、交流の場で子どもに仕事の内容を説明することで、改めて自身の仕事を深く見つめ直すきっかけとなった。また、子どもが憧れのまなざしで真剣に耳を傾ける姿勢に触れることで、自らも引き締まる思いとなり、地域の子どもの成長に貢献したいという意欲や活力が高まっている。(株式会社MVC WORKS)</p> <p>キャリア教育においては、関係機関や企業の役割分担と連携が重要である。子どもの興味喚起や教育現場の課題解決に向けて、各機関が何を提供できるかを理解し合い、協力する姿勢が求められる。子どもに楽しさや刺激を与え、実社会の知見や職業観(環境・仕組み・技術・人材など)のリソースを活かし、より良い学びの機会を創出することが大切である。(mona dance academy)</p>
-----------------------------	---

<p>活動の今後の展望</p>	<p>本市のキャリア教育推進活動は、これまでの成果を土台に、さらなる発展と深化を目指す。今後は、以下の点を中心に活動を展開していく予定である。</p> <p>まず、キャリア教育応援企業等登録制度のさらなる拡充と浸透を図る。現在の商工会との連携を強化しつつ、より多様な業種や規模の企業、さらに個人事業主やNPOといった地域住民にも参加を呼びかけ、登録数を増やすことで、子どもが触れられる職業や生き方の選択肢を広げる。特に、福祉、医療、ITなど、今後の地域社会を支える分野の企業との連携を深めることで、より時代のニーズに即したキャリア教育を提供していく。</p> <p>次に、マッチングプラットフォームの本格運用と全国展開への貢献である。2025年5月に締結した協定に基づくプラットフォームを積極的に活用し、学校と地域・企業間のマッチングをより効率的かつきめ細やかに行う。将来的には、このプラットフォームが他自治体でも活用されることで、本市での成功事例を全国に波及させ、日本のキャリア教育全体の発展に貢献することを目指す。オンラインでの交流機会も増やし、地理的な制約にとらわれない学びの場を提供する。</p> <p>さらに、地域コミュニティとの連携を一層強化し、キャリア教育を通じた地域活性化に貢献する。「子ども100番」や「見守りパトロール」への企業参加といった議論を具体化させ、キャリア教育をきっかけとした地域全体の「子育て・子育て支援」の輪を広げる。コミュニティ・スクールとしての機能も強化し、学校が地域の核となり、子どもが地域の一員としての自覚と誇りを持てるような、生きた学びの場を創出していく。</p> <p>最終的には、これらの取組を通じて、子どもが変化の激しい社会の中でも自ら未来を切り拓く力を育み、将来にわたって地域社会の担い手として活躍できるよう、揺るぎない基盤を築いていく。</p>
-----------------	---

<p>活動の様子</p>	 <p>地元ダンサーさんと、学校現場での打ち合わせの様子</p>
--------------	--

活動の様子



社会人トークの様子